



謹賀新年

新年挨拶	2～4
佐藤哲也さん 佐藤孝一さん 受賞祝賀会	5
第15回ミルクフェスタイベント開催される	6
平成25年度第2回地区別学習会	7
JAひろお整備工場技術講習会を開催	8
第44回広尾毛がにまつり	8
ツリ一点灯式で牛乳消費拡大キャンペーン 整備工場でクリーニングロータリー製作	9
コンゴライアンス研修会開催される	9
年金相談会開催	10
町営牧場一斉退牧行われる	10
農業用廃プラスチック類回収行われる	10
不要農機具・車輛等回収処理事業行われる	10
不法投棄合同パトロール行われる	10
酪農部会視察研修行われる	11
すみれ会観劇温泉旅行	11
「営農計画書」の提出はお早めに	11
女性部秋期講習会開催	12
青年部農薬空容器回収行われる	12
青年部平成25年度学習会開催される	12
第38回 J A 十勝青年部大会開催	13
青年部平成25年度視察研修 理事会	13
豊似給油所イルミネーション JAバンク教育ローンキャンペーン	14
JAバンクATM手数料無料	15
表紙インタビュー・占い	16
背表紙 (謹賀新年・役員名簿)	17
	18

新年の挨拶



広尾町農業協同組合代表理事組合長

萬亀山正信

輝かしい新春を、ご家族皆様で迎えられることと存じ、心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は当JAの運営に対しまして特段のご理解とご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は春先の雪解けが早かったものの、4月中旬からの天候不順に加え、5月初旬には、この時期としては8年ぶりとなる積雪を記録するなど、蒔き付け作業の遅れやその後の作物の生育への影響が非常に心配されたところでありましたが、5月下旬以降は比較的好天にも恵まれ気温も高く推移したこと

から、一番牧草は平年以上の収量を確保することができ、その他の農産物についても9月の長雨や台風による影響で収穫作業の遅れや一部飼料用とうもろこしの倒伏被害はあったものの、総じて平年以上の収量を確保できたことは大変喜ばしいことであり、組合員皆様のご努力に対して心から敬意を表すところであります。

酪農畜産において、生乳生産は昨年の猛暑の影響で分娩時期がずれ込み、夏期間の高温多湿による乳房炎の増加など思うように生産量が伸びない時期もありましたが、全道的に前年実績を

下回る地区が多い中、生産者の皆様の日頃からの飼養管理の徹底や規模拡大等に向けた意欲的な生産活動によって前年対比101%の実績を見込んでいくところと存じます。家畜生体販売では乳牛・肉牛の市場価格が比較的高値で推移したことにより昨年を上回る実績となり、農畜産物合わせて本町の農業生産額は58億円を超える予測となりました。これもひとえに組合員皆様の営農に取り組み強い意欲と日々の大変なご努力によるものと心から感謝を申し上げます。改めて敬意を表するところであります。

3年先・5年先を見据えた取り組みを着実に取り進めて参りたいと考えております。また、昨年は組合員の皆様のご理解とご協力のもと、万が一の災害に備えた緊急用電源切替盤の設置やサルモネラ症等が発生した場合の互助制度の創設など、将来に向けて安心して営農が継続できる仕組みの構築に向けた取り組みを進めることができました。組合員の皆様の取り組みに対するご理解とご支援に心から感謝を申し上げますとともに、今後も本町の農業経営が安定的に継続できるよう各種支援対策の検討や体制整備に向けた取り組みをスピード感をもって進めて参りたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力をお願い致します。

さらには、PPP交渉につきまして、3月の交渉参加表明以降、組合員の皆様のご協力のもと町内での反対集会の開催や全十勝・全道集会への参加など、様々な運動を展開してきましたが、参加国による会合が開始された後も情報開示が極めて不十分であり、その後の交渉の行方が強く懸念されているところです。

最後に、本年が天候に恵まれ、災害が無く、稔りの多い年でありましたことと、組合員及びご家族皆様のご健勝とご多幸・ご活躍を心からお祈り申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。

平成26年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会会長

飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、希望に満ちた平成26年の新春を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。昨年の北海道農業は、天候不順により一部地域で農作業や生育の遅れが生じ、台風や大雨等の被害にも見舞われました。そのような中、各種課題を克服しながら、一年間の営農にご尽力されたことに対して、改めて敬意を表します。

平成25年は、国内外ともに、まさに激動の年でありました。PPP交渉につきましては、3月の交渉参加表明以降、交渉参加反対のもとで、関係機関・団体と連携をはかりながら、各種運動を展開致

しました。かねてより懸念していたとおり、情報開示が極めて不十分な中、秘密裏に交渉が進行し、予断を許さない不透明な状況が続いておりますが、自民党並びに衆・参農林水産委員会の決議を順守し、状況によっては脱退も辞さない覚悟のもと、それぞれの国の事情に十分配慮した対応がなされるよう、政府・与党への強力な働きかけと併せ、国民世論形成に向け粘り強い運動を展開していく必要があります。

過般、政府は我が国農政の柱のひとつである米政策を大きく転換し、それに伴い各種助成金体系や経営所得安定対策の

見直し、日本型直接支払制度の創設等がなされました。短兵急な政策転換に対して、生産現場では不安と混乱が渦巻いておりますが、改めて生産現場における取り組み状況を十分検証しながら、生産者が意欲と将来展望を持つて経営展開ができるよう、より実効性のある仕組みを確立していくことが重要であります。また、政府は成長戦略の実現に向けて、農業・JA改革を課題のひとつに取り上げ、産業競争力会議や規制改革会議等において関連する議論を行っております。これら規制改革の動きに関しては、農業の役割や生産現場の実態に関する基本的な認識が十分でないことに大きな原因があり、北海道のような農業専業地帯の実情やJAグループの取組み状況等を十分踏まえ、た議論がなされ、本道農業の持続的発展に資するような政策が確立されるよう、働きかけを強化していく必要があります。

平成24年11月に開催した第27回JA北海道大会において、「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」について決議致しました。平成26年度は実践2年目にあたりますが、時代の変化を踏まえた中で、JAグループの組織・事業機能の充実強化に向けた自らの取組みを進めつつ、一般消費者に対する情報発信を行いながら、本道農業並びにJAの強力な応援団づくりを進めていくことが重要であります。

国内外の情勢がめまぐるしく変化している昨今ですが、今一度足元を見つめ直し、生産者の方々をはじめJAグループ関係者の意志と知恵を結集した中で各種課題を乗り越えていくという強い

信念と実行力が求められています。現在の地域農業やJAの基盤を築いた我々の先人も、その時々々の時代背景のもとで、さまざまな困難に立ち向かってきたものと存じます。当然のことながら、JA・連合会も「組合員の営農と生活を守り向上させる」という目的を踏まえ、最大限の努力を傾注していかなければなりません。

さて、過般、日本の「和食」がユネスコ（国際教育科学文化機関）の世界無形文化遺産に登録される見通しであるとの動きがありました。我が国の食文化の素晴らしさが世界的にも認知されたわけですが、そのことは、素材である我が国の農畜産物が評価されたといっても過言ではなく、日本の食料供給基地である北海道の果たす役割も極めて大きなものがあると存じます。国民の命に直結する農業は、我々の先代が永きにわたり、労苦を惜しみます築き上げてきたものであり、その役割・重要性は将来にわたり、いささかも変わるものではありません。農業は、国家百年の計に立つた中で、将来にわたって引き継いでいくべき重要な産業であり文化であります。

今年の干支は、午年（うまとし）です。予断を許さない情勢が続いておりますが、馬のごとく力強く、また、さつそうと駆け抜けていく気概をもって頑張りましょう。

結びになりますが、本年が天候に恵まれ実り多い年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。

新年の挨拶



J Aひろお女性部部长
古関 悦子

女性部の皆様、並びに組合員、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年中は、女性部活動に特段のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。私は、昨年2月総会での役員改選にて、部長とJA十勝地区女性協議会の理事を仰せつかり、緊張の中一年が過ぎようとしています。

研修先の町内、十勝管内、道内外で出会った人との交流は、私を成長させてくれていると思います。

めまぐるしく変動する農業情勢を十勝の役を生かして皆様に伝えることが出来ず、未だ勉強中です。

TPP参加に反対し、デモ行進で声

を上げて政府には届かないのが現状です。これからも皆で一丸となつて反対運動を続けていかなければならないと思つています。

数年前から女性もJA経営に積極的に参加、参画をしようと思つて進められています。女性だからこそ気づける意見をどんどん出しましょう。そして、今年も女性が「いつまでも元氣」な姿を見せましょう。

最後に、JAひろおをはじめ、各関係機関の皆様には、今後とも尚一層のご指導、ご支援、ご協力をお願いし、新年の挨拶と致します。

新年あけましておめでとうございます



J Aひろお青年部部长
岡田 純一

青年部員並びにご家族、関係機関の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年中は青年部活動に對しまして特段のご支援、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、様々な気象条件に悩まされる年となりましたが、平年並みを確保出来たのではないかと思います。ですが、農業を取り巻く環境は依然厳しい状況に置かれていると言えます。特に、TPPに関しては予断を許さない状況で、交渉の行く先が注視されます。

私たち青年部は、TPPに反対の声を上げる一方、消費者への農業に対する理解を深め、子どもたちに食の大切さ、命の大切さを伝える等の活動を精

力的に行つていきたいと考えております。

近い将来、農業のカタチが変わるかもしれません。そのときに備え、我が青年部の仲間たちだけでなく、十勝そして全道・全国の盟友達との交流を深め、情報・意見を交換し、日本の農業を若い力で盛り上げていきたいと思つています。

本年も部員一丸となり、本町農業の発展に向けて一層努力して参りたいと考えておりますので、皆様方の更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

受賞祝賀会

佐藤 哲也さん

第30回北海道肉用牛共進会
未経産部門最高位受賞

佐藤 孝一さん

2013北海道ホルスタインナショナルショー
ジュニアチャンピオン受賞



10月30日、第30回北海道肉用牛共進会において、未経産部門の最高位を受賞された佐藤哲也さんと、2013北海道ホルスタインナショナルショーにおいてジュニアチャンピオンを受賞された佐藤孝一さんの受賞祝賀会が広尾町農村環境改善センターにおいて行われました。

開会にあたり、主催者を代表し萬亀山組合長より全道一という快挙を、黒毛・ホルスタインの両方で獲得したことに栄誉を讃え挨拶があり、両名に花束贈呈が行われました。

村瀬町長から祝辞をいただき、山本乳牛改良同志会会長の乾杯挨拶のあと記念撮影等を交え祝宴が行われました。

受賞にあたって佐藤哲也さんと佐藤孝一さんから、受賞の喜びの挨拶があり、今後の豊富をいただきました。

最後に門馬肉牛部会会長の音頭で参加者全員による万歳三唱をして閉会しました。

なお、受賞者の各共進会での成績は次のとおりです。

◆たらちね465号 (佐藤哲也さん出品)

第44回十勝総合畜産共進会 (肉用牛の部)

第20部 未経産クラス (生後15ヶ月以上18ヶ月未満) 1等4席

第30回北海道肉用牛共進会

第4部 未経産クラス (生後15ヶ月以上18ヶ月未満) 1等1席
未経産部門最高位

◆KCF BB アットウッド スリツク (佐藤孝一さん出品)

第44回十勝B&Wショウ

第4部 未経産ミドルクラス 1席
ジュニアチャンピオン

第44回十勝総合畜産共進会

第7部 未経産シニアクラス 1等1席

2013北海道ホルスタインナショナルショー

第6部 未経産シニアクラス 1等1席
ジュニアチャンピオン

第15回 ミルクフェスティバル 開催される



11月6日、今年で15回目となるミルクフェスティバルが広尾町農村環境改善センターで開催されました。

始めに、帯広畜産大学臨床獣医学研究部門准教授の石井三都夫氏が講師を務め、「牛のための分娩管理技術について」と題して講演が行われました。

主な講演の内容として、仔牛の死産における3/4が新生子死・胎子死（受胎240日～死産）とよばれる分娩事故によるもので、分娩事故率が5%を超える農場の分娩管理には何らかの問題があり、具体的には、早すぎる助産や早すぎる交配（初産牛）・寝起きのしづらい分娩房が挙げられます。具体的な対策として、まず牛体においては、体格の小さい牛（350kg・125cm以下）には交配しない、分娩時まで十分成長（600kg・140cmを目標）させる管理を行い、次に人的対策として、足胞の出現から、破水までの時間は牛によって差があるものの、破水後あるいは足胞の出現から30分の時点で産道の状況・胎子の生死・活力・失位の有無を確認し、胎子に活力があり、失位が無い場合は経産牛で1時間、初産牛では2時間は介助せず待つ事が重要です。また、軽い胎子失位は寝起きの際に自然に治るので、寝起きのし

やすい分娩房を心がける事が重要です。無理な助産による影響として、産道損傷↓感染↓産褥熱↓食欲低下↓脂肪肝・ケトシス・第四胃変位↓乳量低下↓繁殖成績低下があり、出来る限り助産しないのが理想ですが、助産する場合においては無理な牽引を防止する為に、なるべく一人で助産を行い、ヒップロックスをさせない為に肩まではまっすぐ後方に引っ張り、胸が出たら飛節方向へ引っ張る事が重要であると説明されました。

次にMPアグロ（帯広支店の谷口伸吾氏より分娩前後時に関連する商品が紹介されました。

ここでは、分娩監視装置システムや分娩直後に仔牛の体を乾かすヒーター付きポリドームカーフウォーマー、初乳パウダー等補助飼料が紹介され、参加者は会場内に展示された商品やサンプル品を手に取り確認しておりました。

終了後は昼食に合わせて懇親会が行われ、ミルクーズから提供されたチーズ、お菓子、ケーキ等をいただきながら懇親を深めました。

講演会の資料がありますので、必要な方は営業販売課までお問い合わせ下さい。

平成25年度 第2回地区別学習会

11月25日・27日の両日、新生・野塚地区と紋別・東豊似地区の各地区研修センターにおいて、十勝農業改良普及センター南部支所 専門普及員海田佳宏氏を講師に招き、「哺乳から離乳まで昔と今ではここが違う！」のテーマのもと、学習会が開催され、町内の生産者ら23名が参加しました。

スライドと資料を交えて、哺乳期間における具体的な哺乳量やスターター等の給与方法と、哺育器具やハッチ等の哺育施設を利用するにあたっての注意点について説明がされました。

なかでも、哺育期間におけるルーメン絨毛の発達には穀類の給与が重要であることからスターターの給与は必要不可欠である事の説明がありました。

また、ホルスタイン仔牛の増体目標として、体重を8週間で出生時の2倍にする事が一つの目安であり、例えば出生時42kgの仔牛であれば、8週齢では84kgが目標体重となりますが、実際に体重を一頭一頭計測する事は現実的ではない為、簡易的な推定体重の求め方として、体重42kgであれば、胸囲80cmで、84kgであれば、胸囲100cmが



一つの目安であると説明がありました。また、哺乳作業を行う上では、哺乳器具を衛生的に管理する事が重要であり、哺乳瓶の吸い口には、消毒効果が高く、なおかつゴムが劣化しないフマール酸消毒液が有効であるとの説明がありました。

学習会の資料がありますので、具体的な内容に興味のある方は営業販売課までお問い合わせ下さい。

JAひろお整備工場

技術講習会を開催

11月10日、車輛整備工場において技術講習会が行われました。

この講習会は、工場を利用している組合員を対象に、機械や自動車の簡単なメンテナンス方法について学び、機械や自動車を長く使用

していただくために毎年開催しています。

今回は12名が参加し、整備工場の横山係が講師となり溶接作業事故防止対策や溶接時の注意点などを含め、溶接方法について講習を行いました。

参加者は、講師より指導を受けながら実際に溶接を行い何度も繰り返し練習し、熟練を要する3.2ミリの平鉄板を重ね合わせて繋ぐビード溶接や、垂直に鉄板を繋ぐ隅肉溶接等について学びました。

初めは上手にできなかった方もコツをつか



み溶接ができるようになりました。受講者の中には若い農業後継者も多く、安全で高度な溶接技術を習得するために講師の説明を真剣に聞き実技に取り組んでいました。

整備工場でクリーンロータリー製作

この度、舗装道路の汚れを清掃するための機械を整備工場の鉄工部門で試行錯誤しながら製作しました。レーキの爪を外して、18本の竹ポーキを取り付け回転させて汚れを掃いていく装置です。この商品名はクリーンロータリーと名付けました。皆様のご依頼をスタッフ一同お待ちしております。



コンプライアンス研修会開催される



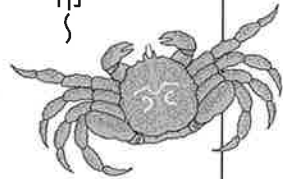
11月16日、第65回農協法公布記念式典終了後、全職員を対象にコンプライアンス研修会が広尾町農村環境改善センターで行われました。



この研修会は、毎年、当JA職員が講師となり不祥事を起こさない職場づくり、コンプライアンスに対する意識の高揚を図るためのもので、今年は山畑信用管理課長が講師となり、実際に起きた不祥事の事例などを交えて研修が行われました。

第44回 広尾毛がにまつり

牛乳消費拡大運動・ホットミルク配布



12月8日、広尾毛がにまつりがサイドパーク広尾特設会場にて開催されました。当日は好天に恵まれ、多くの来場者で会場が埋め尽くされるほどの賑わいをみせていました。毛がにを茹でる大釜の前には、開催を待ち望んだ多くの方々が長蛇の列を作っていました。遠く札幌や、帯広からツアーで来られる方もおり、お昼頃には完売するお店もあるほどの盛況ぶりでした。



盛り上がりを見せていました。町内農業生産者からは黒毛和牛のステーキ、ハンバーグなどの販売や、ほうれん草、小松菜など野菜類の販売を行いました。また、当JAより、ホットミルク、ホットコーヒー牛乳の無料配布、雪印メグミルク様よりクリームシチューの無料配布を行いました。寒い会場でのホットミルク、クリームシチューは大変好評で、多くの方に喜んでいただき、牛乳のおいしさを大いにアピールすることが出来ました。

ツリー点灯式で

牛乳消費拡大キャンペーン

10月26日、大丸山森林公園のツリー点灯式会場で、牛乳消費拡大キャンペーンが行われました。親子連れや札幌からの団体客も来場し、用意した暖かい牛乳、コーヒー牛乳500杯分は約2時間程度で配り終わりました。

今年は北海道日本ハムフアイターズのキャラクターBBくんが来場し会場を盛り上げ、ツリー点灯式のセレモニーでは、村瀬優町長のあいさつ後、イルミネーションが点灯され、町内の保育所、幼稚園の園児によるクリスマスソングなどの披露に続き、締めくくりには約300発の花火が打ち上げられ大いに盛り上がりしました。

このイルミネーションは12月末まで点灯されサンタランドの雰囲気がかかります。



年金相談会開催

11月18日、年金相談会が社会保険労務士の近藤洋子氏を迎えて、広尾町農村環境改善センターで開催されました。

個別に相談する形式ですので、請求手続や受取方法、受取金額など年金に関することなら何でも相談できます。

今回も、受取時期によって思っていた金額よりも多くもらえることが分かったり、他に掛けていた年金が見つかるなど、参加された方々は有利な情報を得ることができました。

年金制度は複雑でなかなか理解できないと思われるのですが、専門の先生から分かりやすく説明していただけたのでとても安心です。

今後も相談会の開催を継続して参りますので、まもなく受給を迎える方はもちろんのこと、年金についてお知りになりたいことがある方は是非、次回開催時にご参加下さいますようお願い申し上げます。